

健康文化

老人クラブ変遷記

今井田 二三子

「毎日仕事がなく、一日が長すぎて、朝起きると今日はどうして過ごそうかと思ひ悩むことがあります。何か年寄りの集まりができたと聞いたが通知がないので何処へ行って誰に尋ねてよいのやら」。

開業して間もない頃、郵便局を訪れたとき耳にした言葉でした。その頃高齢者の集まる会が其処此処に結成されたことは聞いていましたが、私も何処に行つて誰に尋ねてよいのかわからない一人で、診療所を訪れられる誰かに尋ねて予備知識を持っておこうと心の中で思いました。その私の耳に飛び込んできた話し相手の言葉は「何処へも行くところがなかったら、内科の医者のところへいったら、朝早ようから年寄りの人が待合室にみえるで（いらっしゃるので）話し相手に困らんがな」といったびっくりさせられるものでした。私はその頃、そんな会話が日常巷で交わされているなどとはつゆ知りませんでした。それから半年ほどすぎた頃、母のところへも老人会の案内が届けられるようになり「今日は老人会だから髪を結い直してくれ」「暑くなったから単衣の着物がよいのだろうか」などと言って結構楽しんで出掛ける後姿をみて、その度に郵便局で話を耳にしたあのお婆さんも今頃は診療所の待合室ではなくて老人会を楽しんでいるのではないかと思ひ出していました。

その後また暫くすると早朝のゲートボール練習などと今まで聞いたこともないようなゲームの案内が届くようになり、元気なおじいさん、おばあさんが朝早くから大きな木槌のようなものを担いだり下げたりされた姿を見かけるようになり、それがゲートボールに使う道具だと誰かから教えられました。そのうちお揃いのグレーやベージュのユニホーム姿に出合うようになり、今日は市内のゲートボール大会の優勝戦といった勇ましい話を告げられるお婆ちゃんも現れ始めました。さらに驚いたことはゲートボールの練習後、喫茶店でミーティングだそうです。

この頃私は喫茶店の情報は若い人からではなく、老人クラブの人々から貰っています。

今やおじいちゃん、おばあちゃんとよぶのは躊躇われるようになってきまし

た。或クラブにハンサムな会員のゲートボールコーチが加わるようになり、脚や腰の痛みで診療所を訪れられていた人々の人数も回数もめっきり減少したのを私は高齢者の方々の心身のリハビリと喜んでおります。

ゲートボールの審判に就任した私の友達などは「審判は絶対的で、こんな気分爽快なことはない、私の言うことをハイと言って聞いていただけるなど生まれて初めての体験」などと活々とした表情でエキサイティングな試合の様子を語ってくれました。

手芸に、絵に、大正琴の練習会、発表会など聞く度に、何時の間にか私などは取り残されているのにハッと気づき、早起き早歩き散歩を思い立ち時々実行しています。ある時、早歩きをするならば往年中距離を走っていた頃を今一度再現とばかり急に走り始めたところ、左膝の緩んだ関節がガクンと音がしたように感じ痛みが周囲に走りました。あっと立ち止まった私を丁度通りかかれた老人クラブの方々が見て「無理されんよう、気をつけて下さい」と言ってすれ違って行かれました。

「それは、私の言う言葉」と後ろ姿へ私は心の中で叫びました。

老人クラブは今年から高齢者クラブと名称が変わったようです。やがて高齢者という言葉も消えるかもしれません。

(内科開業医)